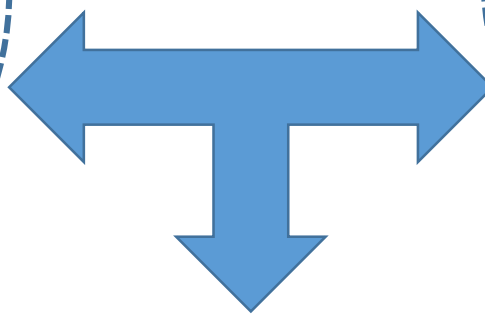


# 産官学連携によって開発した いじめ防止対策授業

「どうする!? SOS ～ ホウレンソウ  
(報告・連絡・相談) 教育プログラム～」



# 産官学連携による「SOSの出し方教育」を テーマとした授業の開発



# 第1弾として

## ネットいじめを許容しない集団の雰囲気醸成するための授業支援の実施

傍観者の視点でいじめを考え、議論する授業の実施

市内全中学校

第1学年 全クラス



相談・報告しやすいアプリの提供(STOPit)

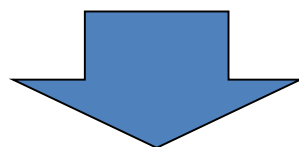
市内全中学校 全生徒



■今回第2弾として、

## SOSの出し方教育に関する授業

「どうする!?! SOS~ホウレンソウ（報告・連絡・相談）教育~」を開発した。



この映像教材は柏の葉中学校で撮影が行われ、柏市内の中学校の演劇部の生徒や先生も出演している。

# ①なぜ今、SOSの出し方に関する教育なのか

自殺対策基本法 自殺総合対策大綱 第17条第3項

「困難な事態、強い心理的負担を受けた場合等における対処の仕方を身につける等のための教育」を推進すること。

文部科学省においても、SOSの出し方に関する教育を積極的に実施することを推奨するなど、社会的ニーズが高まっている。

図表 1-3 10代～30代の死因上位3項目

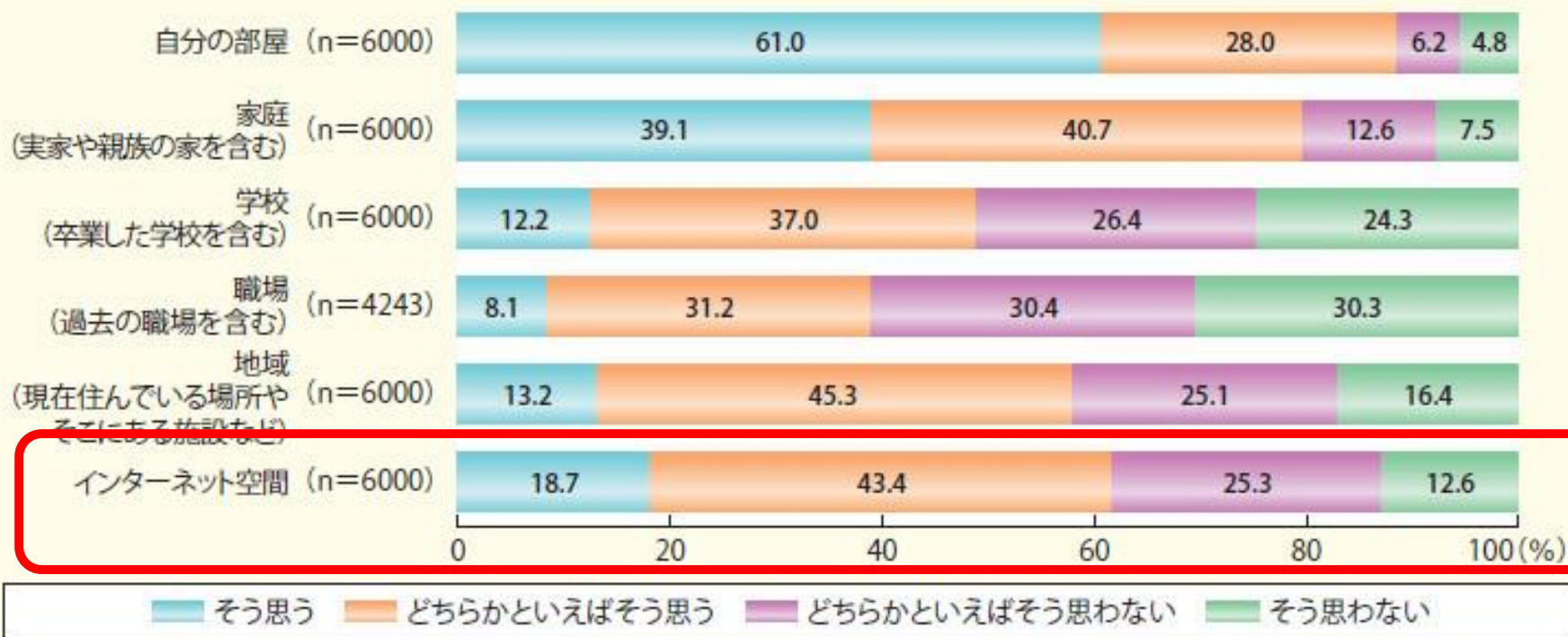
年齢	第1位	第2位	第3位
10～14	不慮の事故	悪性新生物	自殺
15～19	不慮の事故	自殺	悪性新生物
20～24	自殺	不慮の事故	悪性新生物
25～29	自殺	不慮の事故	悪性新生物
30～34	自殺	悪性新生物	不慮の事故
35～39	自殺	悪性新生物	心疾患

(厚生労働省健康福祉部健康福祉指導課:  
平成19年人口動態統計の概況, 厚生労働省 2008)

# 若者にとっての人とのつながり

「H29子ども・若者白書」 内閣府 2016年12月調査

図表2 居場所の有無



(注) 1. 「職場 (過去の職場を含む)」は就業経験者のみ回答。

2. グラフでは、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」それぞれの回答率について、小数点以下第2位を四捨五入しているため、両者を合わせた回答数の回答率とは合わない場合がある。

## 62. 1%の若者がインターネット空間を居場所と感じている

- 「[平成29年版 子供・若者白書](#)」の巻頭特集「若者にとっての人とのつながり」の中で公表されている。
- 調査は2016年12月に実施された。

若者にとってネット世界は**仮想現実**ではなく日常生活とつながる拡張現実



児童生徒のインターネットの利用に関する調査  
(平成29年度, 柏市の児童生徒の現状)

科学警察研究所

犯罪行動科学部 少年研究室

## (1) 調査の目的

インターネット上の知らない人とのやり取りに関する実態を明らかにし、やり取りにつながる児童や家庭等の要因を明らかにすること、**インターネット上の自己防衛行動につながる要因**を明らかにすることを目的とする。

## (2) 調査参加者

	小学生	中学生	担任
学校数	7校	3校	同左
クラス数	43クラス	40クラス	—
有効回答者数	1374名	1249名	79名

## (3) 調査時期

平成30年2月に実施した。

## (4) 調査結果

①夏休みが始まってから調査時点までの、インターネットで知り合った相手とのやりとり

## ア 経験と興味の有無

夏休みが始まってから調査時点までにインターネットで知り合った相手と1対1のやりとりをした経験があった者は小学生で約1割、中学生で2割であった。また、やりとりの経験はないがやりとりに興味があると回答した者は、小学生で4%、中学生で約1割であった。

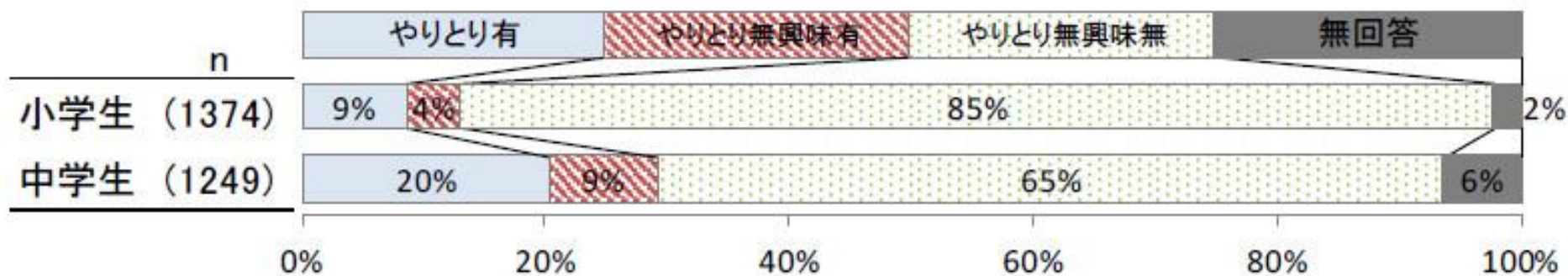


図 やりとりの経験と興味の有無

# イ（やりとりの経験有の場合のみ）相手から実際に会おうと誘われた経験，会った経験

夏休みが始まってから調査時点までにやりとりの経験がある者に、その相手に会おうと誘われた経験（中学生のみ）と会った経験を尋ねた。会おうと誘われた経験のある中学生は、やりとりの経験のある者のうち4割弱（中学生全体の7%）であり、実際に会った者も3割弱（中学生全体の5%）であった。小学生でも、相手と実際に会った者は2割弱（小学生全体の2%）であった。

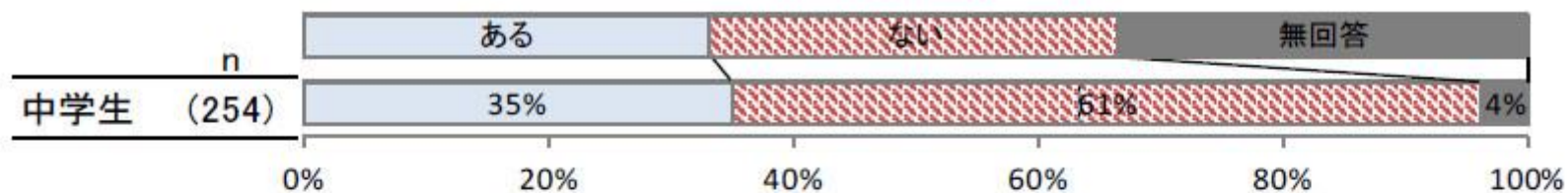


図 会おうと誘われた経験

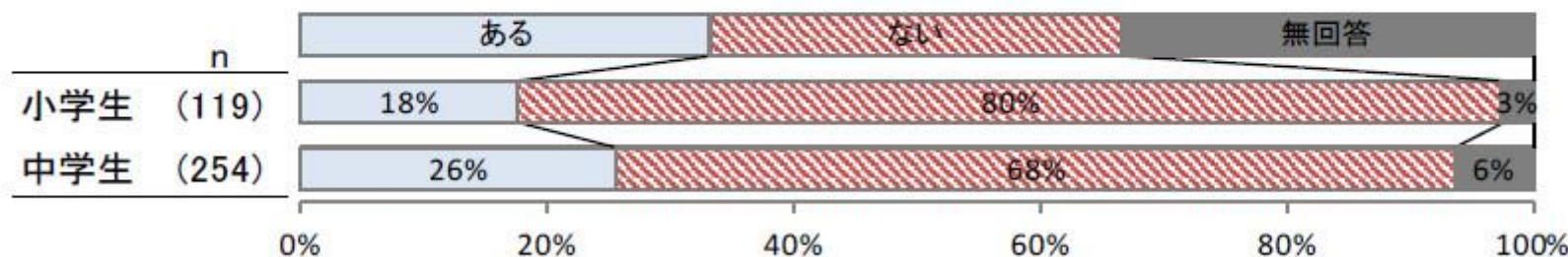


図 会った経験

## ② やりとりをした者とやりとりに興味がある者、ない者の比較

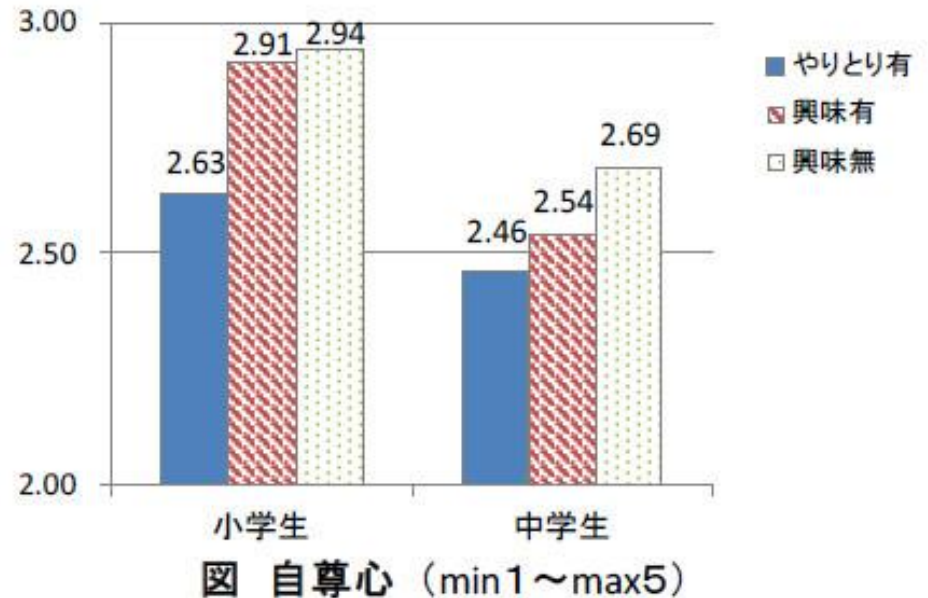
### ア 比較対象

以下の3群について回答結果を比較した。

- ・やりとり有群：夏休みが始まってから調査時点までに、インターネットで知り合った相手とやりとりの経験がある者
- ・興味有群：上記の経験はないが、興味はある者
- ・興味無群：上記の経験も興味もない者

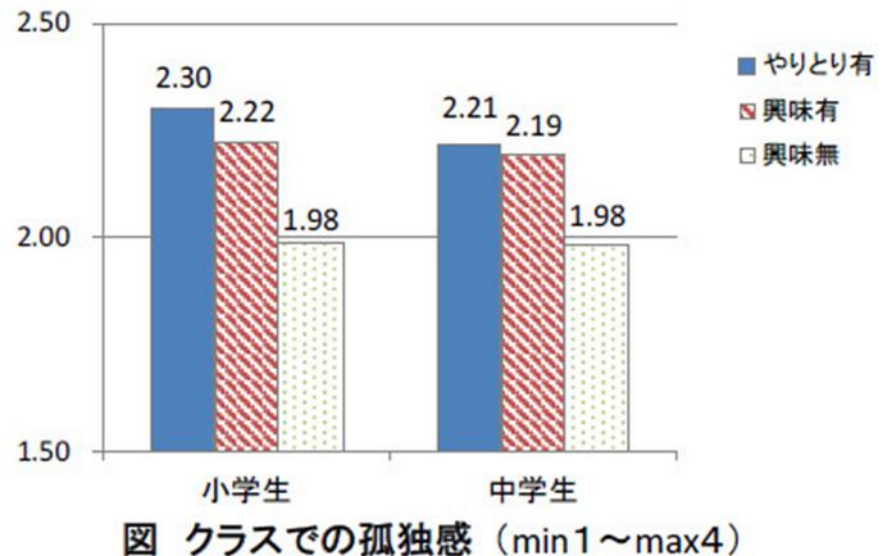
## イ 自尊心

自尊心を比較したところ、やりとり有群の方が、興味無群よりも自尊心が低かった。また、小学生よりも中学生の方が、自尊心が低かった。



## ウ クラスでの孤独感

クラスでの孤独感を比較したところ、やりとり有群及び興味有群の方が、興味無群よりも孤独感が高かった。



## 【考察】

上記の結果から、児童生徒がインターネットで知り合った相手とやりとりを行う背景として、自尊心の低さや周囲との関係の希薄さがあることがうかがえた。

特にクラスで孤立しがちな児童生徒に注意を向け、現実世界での繋がりを支えたり、正しいSOSの出し方に関する教育を推進したりしていく必要がある。





ツイート 59   フォロー 72   フォロワー 468   いいね 90

## 首吊り士

@hangingpro

首吊りの知識を広めたい本当につらい方の力になりたいお気軽にDMへ連絡ください

📅 2017年9月に登録

ツイート

ダイレクト...

👤 1人の知り合いのフォロワー



## ツイート   ツイートと返信

📌 設定されたツイート



首吊り士 @hangingpro · 10月21日  
学校でも職場でもいじめは絶えない

毎日のように通う場所、会う人間とうまくいかないと、精神的にどんどん追い込まれていく

世の中には、ニュースになっていないけど自殺未遂をしまって苦しい思いをしてる人がたくさんいると思います

そんな人の力になりたいです

#自殺

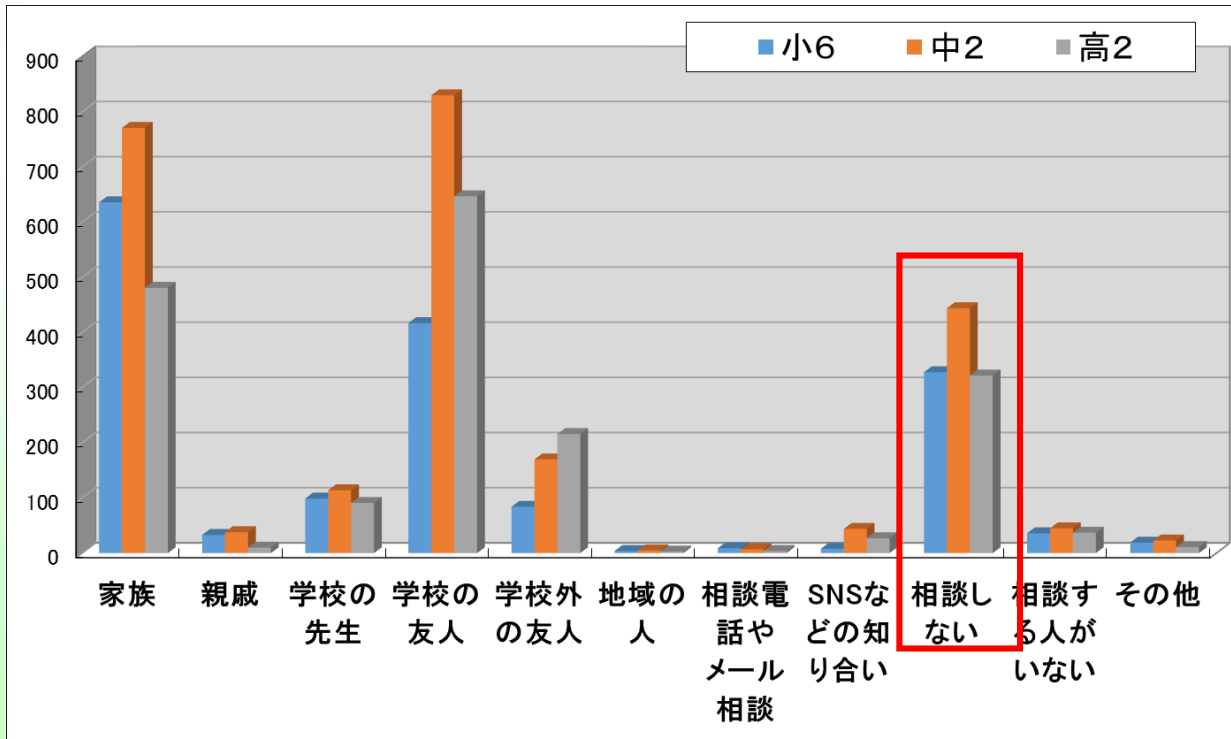
🗨️ 29   📄 104   ❤️ 55   ✉️

## さらに…

「H28.柏市学校警察連絡協議会生活実態調査」によると、「悩みを誰に相談するか」の質問に対し、約3割の中学2年生が「相談しない」と回答している。

**深刻な事態になる前に、生徒がはやめに適切な相談先へ相談や報告をすることが大切であることを理解させる目的で、第2弾の授業内容とした。**

### 【悩みを誰に相談するか（複数回答可）】



H28.柏市学校警察連絡協議会  
生活実態調査より  
抽出 小学6年生:約1200名  
中学2年生:約1700名  
高校2年生:約1200名

## ◎ 授業内容

授業のねらいは以下の通りです。

- ・軽い気持ちで行なった言動によって受け手側に苦痛を与えることがあること
- ・一人で抱え込まず早めに報告・連絡・相談をすることで現状を改善できること
- ・周囲の友達等が悩んでいたときも同様に、適切な相談先に促せるよう声かけをして報告・連絡・相談をする行動がとれるようになること

# ○授業内容詳細

時間	内容
10分	動画【本編】を視聴 【本編あらすじ】中2の網川正樹は、内気な性格である。クラスではいつも数名の男子たちにかからかわれているが、特に反発するでもなく、SNSに表では言えないことを書き込みながら日々をやり過ごしている。しかし、そんな日々が続くにつれ、学校に行きたくないという気持ちが芽生えてくる。親に相談しようとしてみたが、親も仕事で忙しく、結局は誰にも相談できない。ストレスが過度に溜まり、一人で家にいる際につい鞆を蹴飛ばしてしまうと、学校で配られた「ハウレンソウカード」（いじめ等の相談先一覧が書かれたカード）が飛び出たのが目に入る。スマホを手にとり、相談アプリを開き、相談内容を打ち込み、送信しようかと思った網川だが.....。
10分	網川は【①相談を送信する】か【②相談を送信しない】か、どちらを選ぶだろうか。理由も含めて考えさせる。それぞれの意見を共有する。
5分	ストーリーの展開を決める抽選方法について動画で確認し、実際に抽選を行う。
15分	抽選で選択された【展開①】あるいは【展開②】を視聴。その後、選ばれなかった方の展開も視聴する。両方の展開を見た感想を共有する。 【展開①相談する】 深刻化する手前で相談できたことにより、自分の希望する仕方で窓口や学校と適切にやりとりをすることができた。環境が一変した訳ではないが、学校に行くのも悪くないと思えるようになった。  【展開②相談しない】 誰にも相談できず、ストレスがたまっていき、ついには学校に行けなくなってしまった。「暗い部屋で一人で生きていきたいと思います」とスマホに書き込む様子が描かれる。
5分	動画【解説編】を視聴。 【解説編の内容】 ・若い時期に悩みを抱えることはよくある。・問題が深刻化する前に、早めに「報告・連絡・相談」することが大事である。・様々な相談方法を活用し早めに相談してほしい。・誰かに対してできることはないか考えてほしい。
5分	まとめ

# 授業・データ概要

## ○授業について

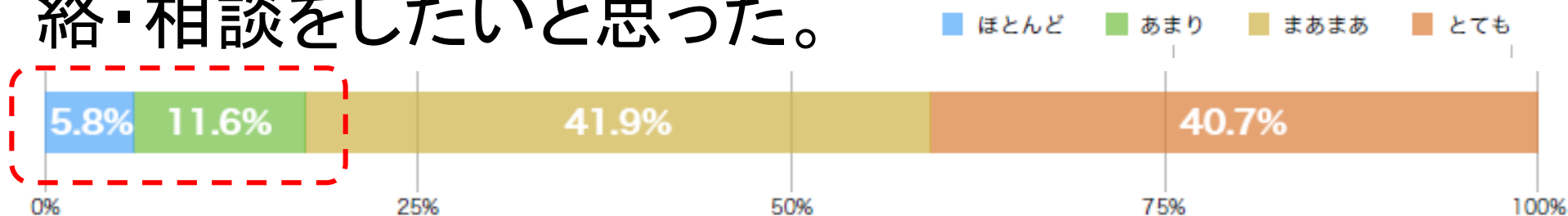
- ・ 柏市立内 公立中学校2年生
- 3クラス(30名, 28名, 29名:計87名)
- すべてクラスごとに実施

## ○アンケートについて

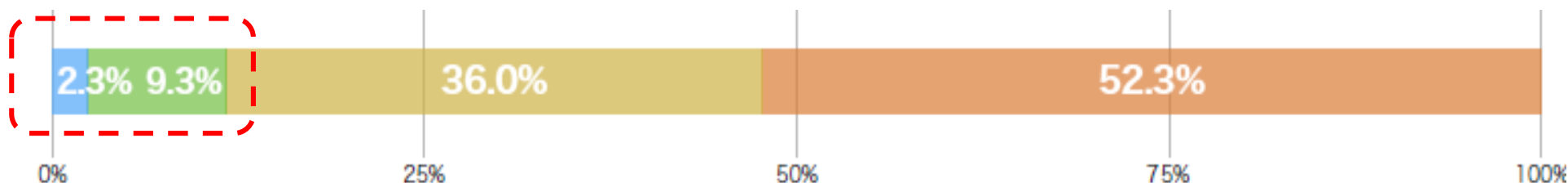
- ・ 実施日:2018年7月2日
- ・ 事前及び事後アンケート

## 【事後アンケート】

① 困ったことがあったら、自分から早めに報告・連絡・相談をしたいと思った。



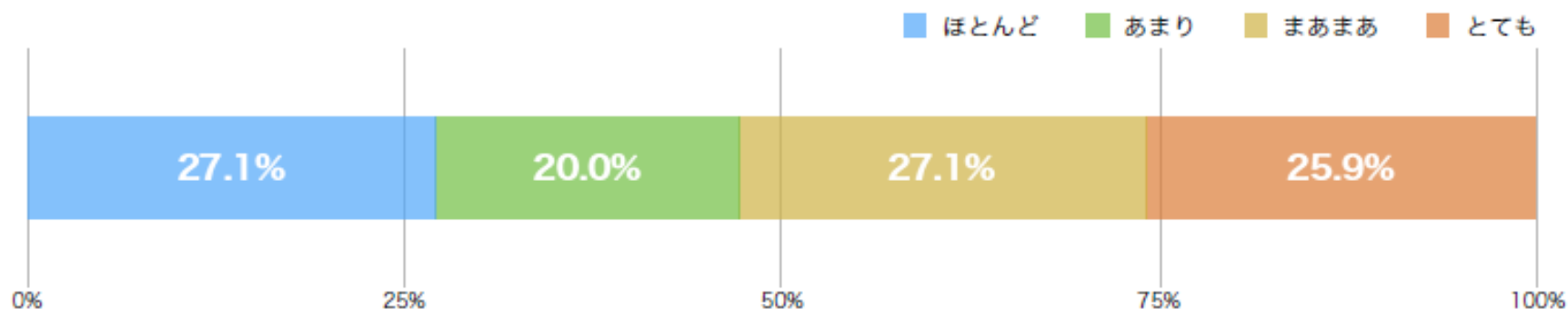
② 誰かが困っていたら、その人が相談しやすいようにサポートしたいと思った。



授業の意図は概ね伝わったと思われる一方で、否定的な意見も見られた。

## 【事後アンケート】

### ③ドラマの途中の選択肢で、どちらを選ぶか悩んだ。



▶授業ではクラスによって選んだ選択肢の比率が異なっていた。  
(相談する:相談しない ①26:4, ②10:18, ③18:11)

クラスの雰囲気や、反応によって柔軟に話し合いを進めていくことが必要である。

## 【自由記述①】

★ 現実には起きたらすごくなやむと思った。自分がいじめられたり、悩んだときには必ず誰かに相談するようにしようと思います。

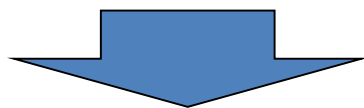
★ 自分にもいつかこんな事がおこりりそうな気がして、いつでも身がまえておきたい。昔、あみかわ君みたいにいじられてていた時があってあまり相談できなかつたけど、今は無いから自分がそんな風にいじらないようにする。



## 【自由記述②】

▲相談するのは大切だと思ったが、単純すぎて実感があまりなかった。

▲実際はドラマみたいにいかないと思った。



大多数が肯定的な回答であった。一部、否定的な回答もあった。ドラマの話を自分事に置き換えられるよう、教室での活動の充実を目指していく必要があるだろう。

## 【まとめ】

ドラマの話を現実につなげるため、クラスでの話し合いを充実させるなどの工夫が必要である。

授業展開の細かな部分を改良しつつ、実践が重ねられるよう各学校に周知していく。

## 【今後の展望①】

本映像教材及び指導案を各学校に配布し、  
中学2年生の全学級で授業を実施し、いじめ  
防止及び正しいSOSの出し方に関する教育  
の推進に向けて取り組んでまいります。

## 【今後の展望②】

今後も「いじめ」について考え、議論する教材シリーズ「私たちの選択肢」の開発に産官学連携で取り組んでいく予定です。開発された映像教材は、DVDおよび指導案、指導資料とともに全国に無償で配布されます。

第3弾 『自分らしく生きるって？ ～多様な性を理解する教育』  
\*2018年10月

『性同一性障がい』について取り上げており，教材を通して性の多様性について学びます。